

## 編集 後記

編集委員を拝命して6年近く経ちました。その間、岡崎編集委員長のもと、本誌の掲載論文(および投稿論文)の質は確実に高くなってきたと思います。本誌は公衆衛生学を研究する学会の機関誌ではありませんが、同時に公衆衛生の広い領域で実践をおこなっている多数の会員のための情報交換の場でもあります。したがって、編集委員会では、(1)学問的に独創性があり、方法論に欠陥がなく、論文執筆に慣れた研究者が書くような、質の高い原著論文を多くしたいという、学会誌としての側面と、(2)会員に広く告知し、実践に役立つ情報を伝えたいという、情報誌としての側面との間で常に悩みを感じております。実践の場から出てきた貴重なデータを含む論文を原著論文の基準(原性、研究デザイン・解析方法の妥当性、論文執筆のお作法など)に当てはめようとする、現実にはなかなかむずかしい面があります。現在、編集委員長のお考えで、査読委員の意見が分かれた場合には、なるべく採用の方向で考え、編集委員会が査読委員の意見を尊重しながら、著者に教育的な指導をおこなうという方針をとっているところです。しかし、これには時間がかかり、投稿から掲載までの期間を短縮することは困難です。また、再査読をおこなう査読委員に多大な負担をかけることになります。

会員の方々がますます多くの(また、できるだけ良質の)論文を投稿して、本誌を盛り上げていただくことをお願いしたいと思います。(甲斐一郎)

### 次号予告(第52巻・第10号)

#### 総説

高齢者における主観的健康感の有用性に関する研究

—日本と中国における研究を中心に—

……………艾 斌, 他

#### 原著

地域高齢者の日常・社会生活の状況と物忘れ自覚症状との関連性

—認知症のリスクスクリーニングとして—

……………寺岡佐和, 他

在宅痴呆症高齢者の10年間の死亡率, 死因および死亡場所

……………別所遊子, 他

地域高齢者におけるタイプ別閉じこもり発生の予測因子

—2年間の追跡研究から—……………新開省二, 他

#### 公衆衛生活動報告

乳幼児健康診査における子育て支援の観点からみた要経過観察者のスクリーニングのあり方について……………波田弥生, 他

#### 資料

益田市における地区活動と部会活動による健康行動介入効果の検討……………片岡大輔, 他

### 「Prof. Sharmanov 講演会」のお知らせ

日 時：2005年11月8日(火) 午後2時半～4時半

場 所：順天堂大学医学部10号館1階会議室

講 演：カザフスタン共和国 栄養アカデミー総裁

Academician Prof. Toregeldy Sh.Sharmanov

“WHO アルマ・アタ宣言作成とその後”(仮題)